

最近のWebパフォーマンス改善について知っておきたいコト

2017/09/24 HTML5 Conference 2017

@ahomu - Ayumu Sato



どうもこんにちは
@ahomuです

@ahomu

- ▶ 佐藤 歩 (さとう あゆむ)
- ▶ 名古屋と渋谷を往復中の Web ディベロッパー
- ▶ 最近の関心は #webperf と #a11y
- ▶ CyberAgent, Inc.
 - 技術本部 Web Initiative Center / メディア統括 技術戦略室

パフォーマンスは重要？

**53% of visits are likely to be abandoned if
pages take longer than 3 seconds to load.**

The need for mobile speed: How mobile latency impacts publisher revenue

<https://www.thinkwithgoogle.com/intl/en-154/insights-inspiration/research-data/need-mobile-speed-how-mobile-latency-impacts-publisher-revenue/>

AUG 10
2017

WebパフォーマンスとプロダクトKPIの相関を可視化する話

WRITER: 1000CH

エンジニア

BI ブックマーク

KPI 云々は弊社のブログをご覧ください

<https://developers.cyberagent.co.jp/blog/archives/9540/> written by 1000ch

技術本部 Web Initiative Center で Web プロダクトの品質改善や組織の技術推進に取り組んでいます、[@1000ch](#) です。その活動のひとつに、直帰率や PV/Session といったプロダクトの KPI を上げることを目的とした Web パフォーマンスの向上があるので、今日はその取り組みについて書きます。

CATEGORY

エンジニア

クリエイター

ディレクター

テクニカルクリエイター

LINKS

[Technical Creator Hub](#)[執筆者一覧](#)

旧来の Web パフォーマンスの評価指標

これまで `DOMContentLoaded` イベントや `load` イベントの値が Web ページのパフォーマンスの良し悪しとして扱われることが多かったと思います。しかしアーキテクチャの複雑化の一途をたどる Web ページのパフォーマンスを測る上では、もはや適切な指標とは言えません。

アジェンダ

- ▶ パフォーマンスに関する基礎的な考え方のおさらい
 - パフォーマンスの基本的な「考え方、捉え方」
 - パフォーマンスとクライアント環境の「多様性」
- ▶ 近年、知りたいパフォーマンス関連のはなし
 - ページロード - コンテンツを早く提供する最適化
 - ランタイム - 滑らかに動く UI と快適な操作感

本日の注意

- ▶ デモとかライブコーディングとかはありません
- ▶ 情報量優先でスライドを淡々とめくっていきます
- ▶ 新しい技術も紹介しますが対応ブラウザは各自で調べて一喜一憂しましょう



パフォーマンスの
基本的な「考え方、捉え方」

観点は大きく分けて2つ



ページロード



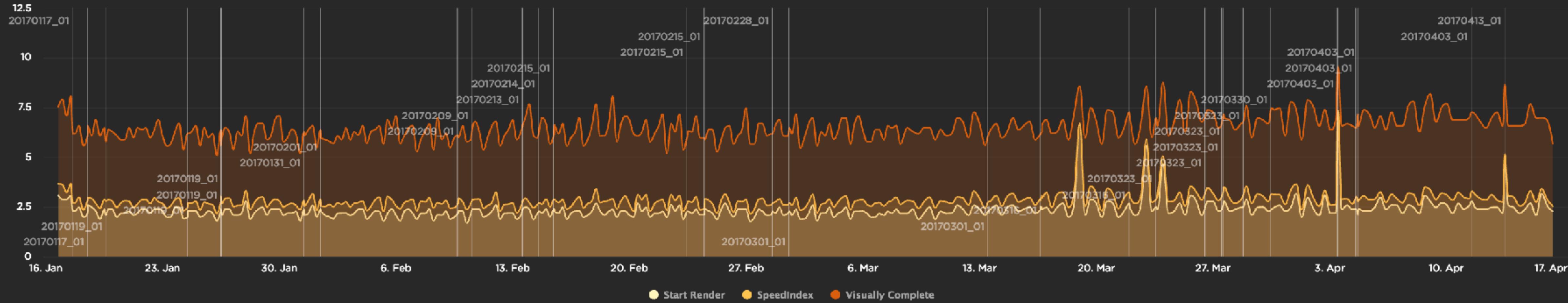
ランタイム

ページロード

- ▶ ナビゲーションの開始からページが表示されるまでの速度
 - クリティカルレンダリングパスの最適化
 - 配信リソース(画像など)の数とファイルサイズの最適化
 - HTML返却(≒サーバーサイド処理)の高速化 etc...

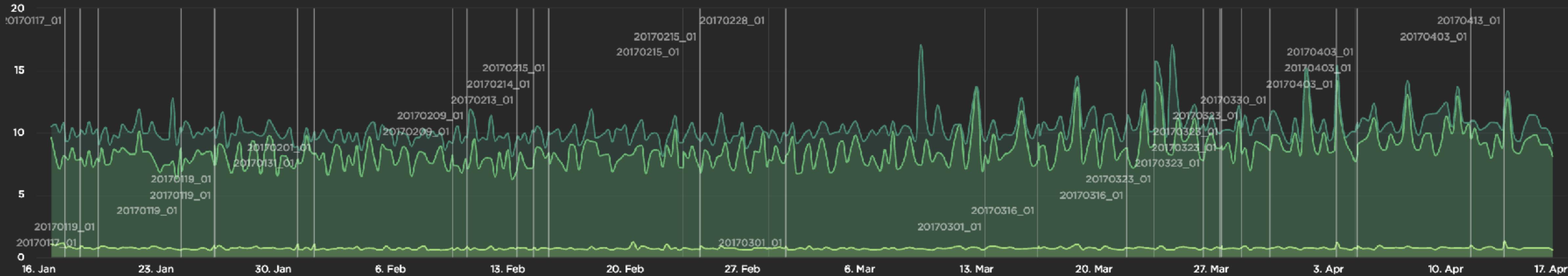
Start Render

2.29s



Backend

0.71s



SPEEDINDEX

FRESH!

2.9s

#2 38% slower

YouTube

2.1s

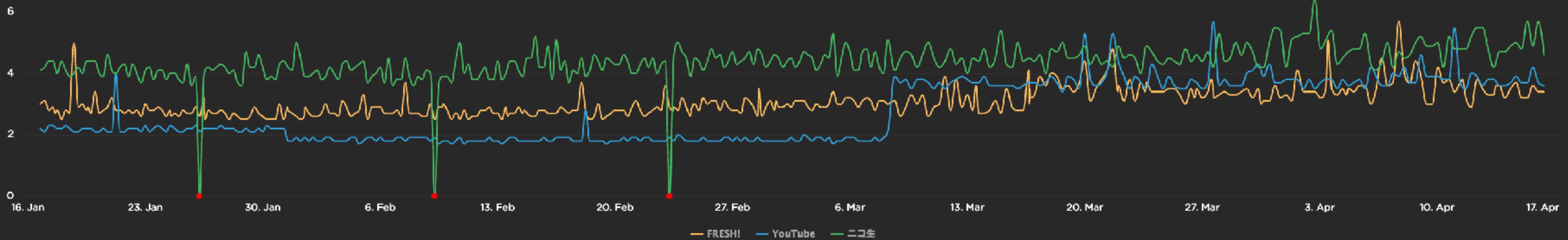
#1

ニコ生

4.4s

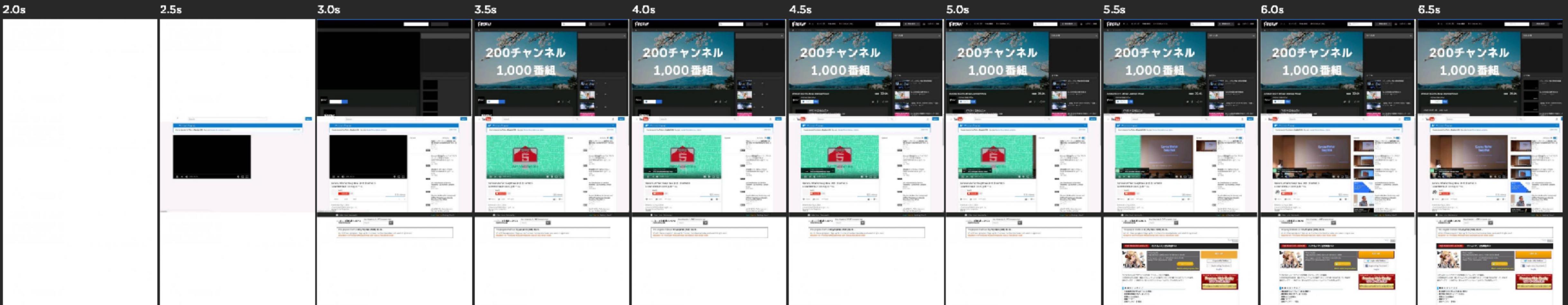
#3 110% slower

B



FILMSTRIP

OPTIONS



ランタイム

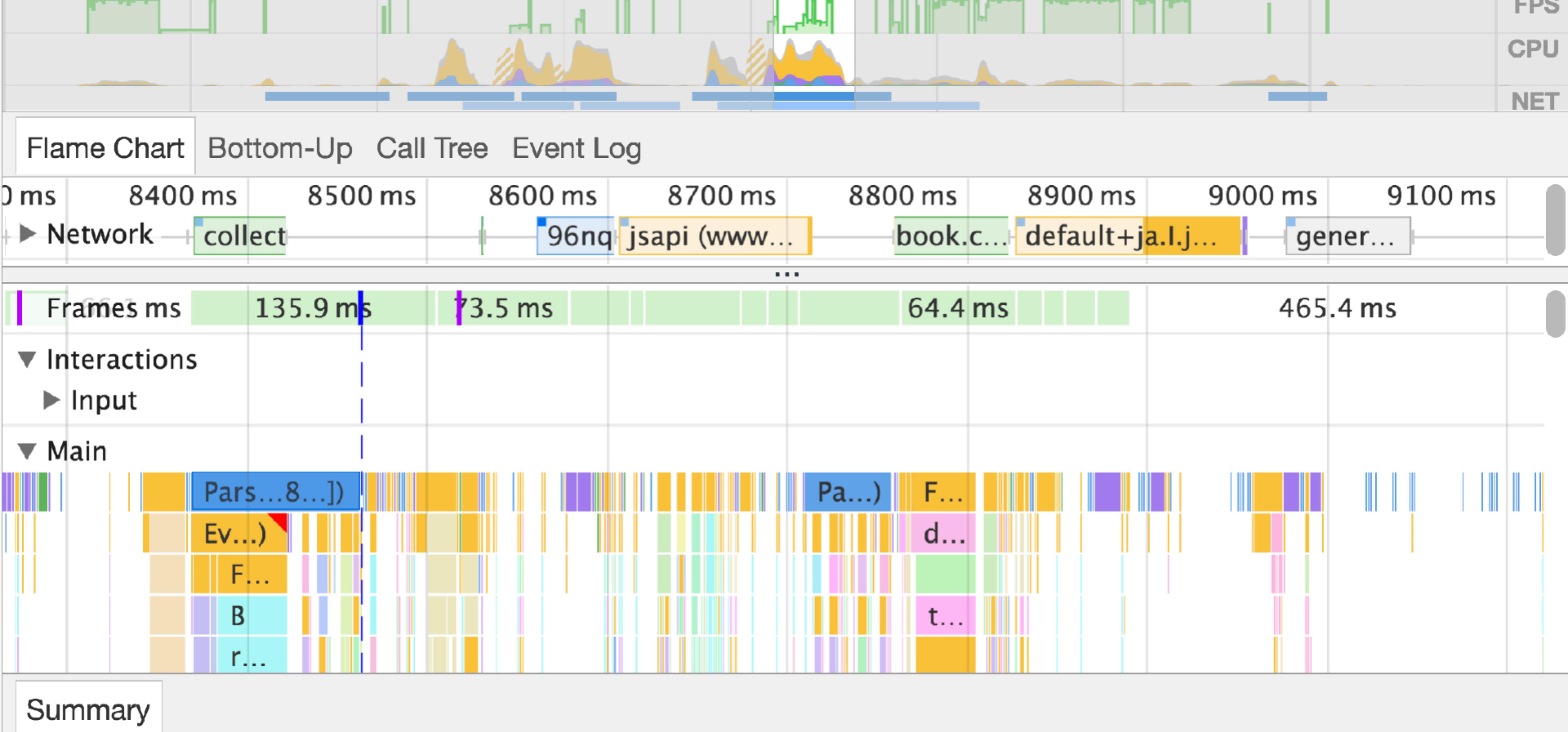
- ▶ ページが表示されたあとの UI の応答速度
 - FPS (1秒あたりの画面の更新回数) の最大化 or 反応の高速化
 - グラフィック的なレンダリング負荷の軽量化
 - 画面更新をさまたげるスクリプト処理の除去 etc...

15

30

60

120



16.1ms Loading (self)

1.0ms Loading (children)

65.4ms Scripting

パフォーマンスと クリアント環境の「多様性」





ユーザーA

2年前のスマホ
地下鉄で移動中
SNSタイムラインから



ユーザーB

最新スマホ
地方に帰省中
ブックマークから

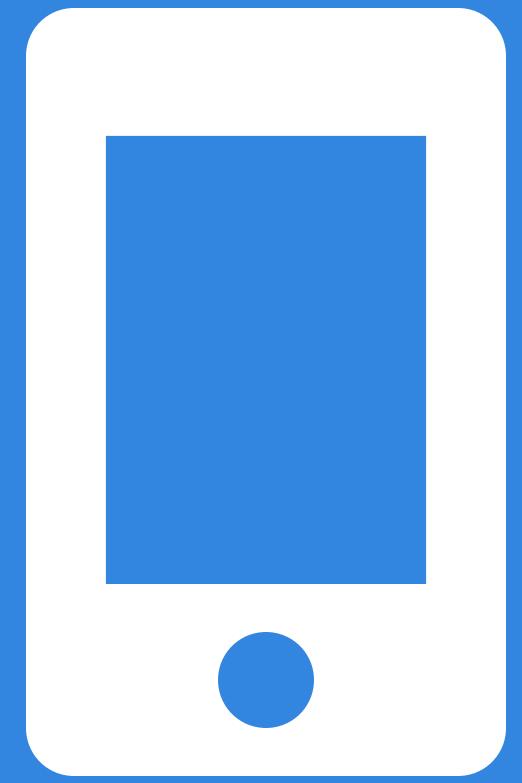


ユーザーC

1年前のスマホ
飲食店の絶望的Wifi
調べ物で検索から

クライアント環境の変数 (ほんの一部)

- ▶ デバイス（処理性能、スクリーンサイズ、操作方法）
- ▶ ブラウザ、OS（実行性能、ユーザーが追加した拡張機能）
- ▶ ネットワーク（オフィス、自宅、公衆Wifi、モバイル）
- ▶ ユーザー（年齢や個人差による認知特性の差異）

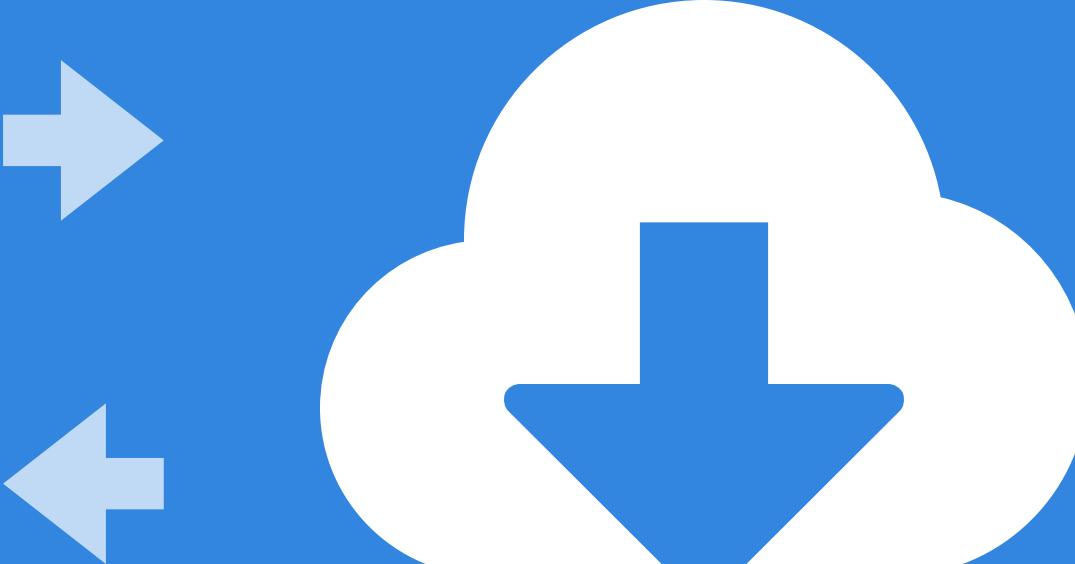


Client

スペックによる処理遅延

Connection

接続のレイテンシー



Network

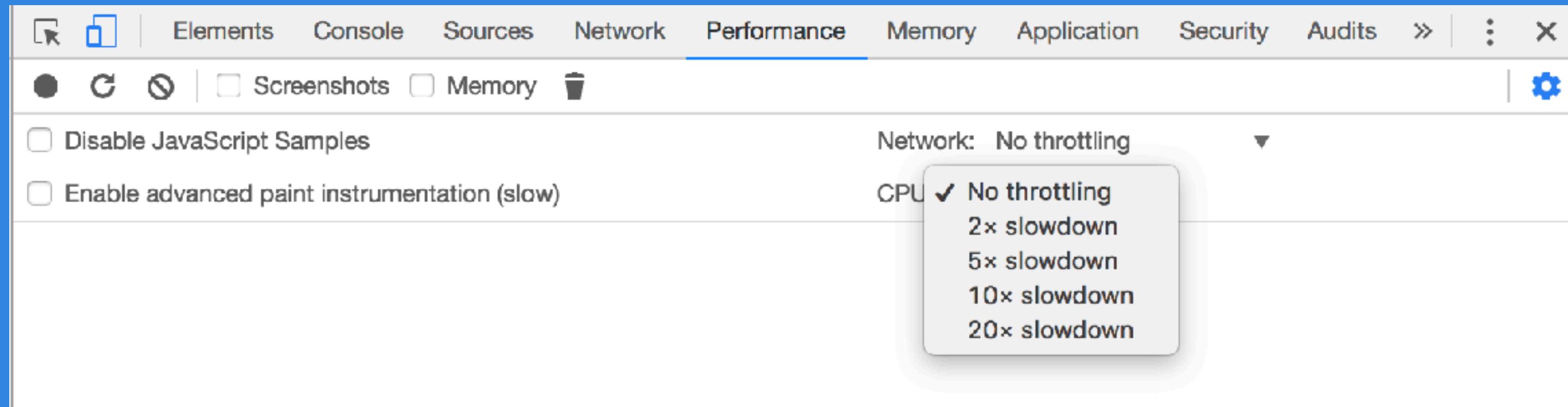
機器間のオーバーヘッド



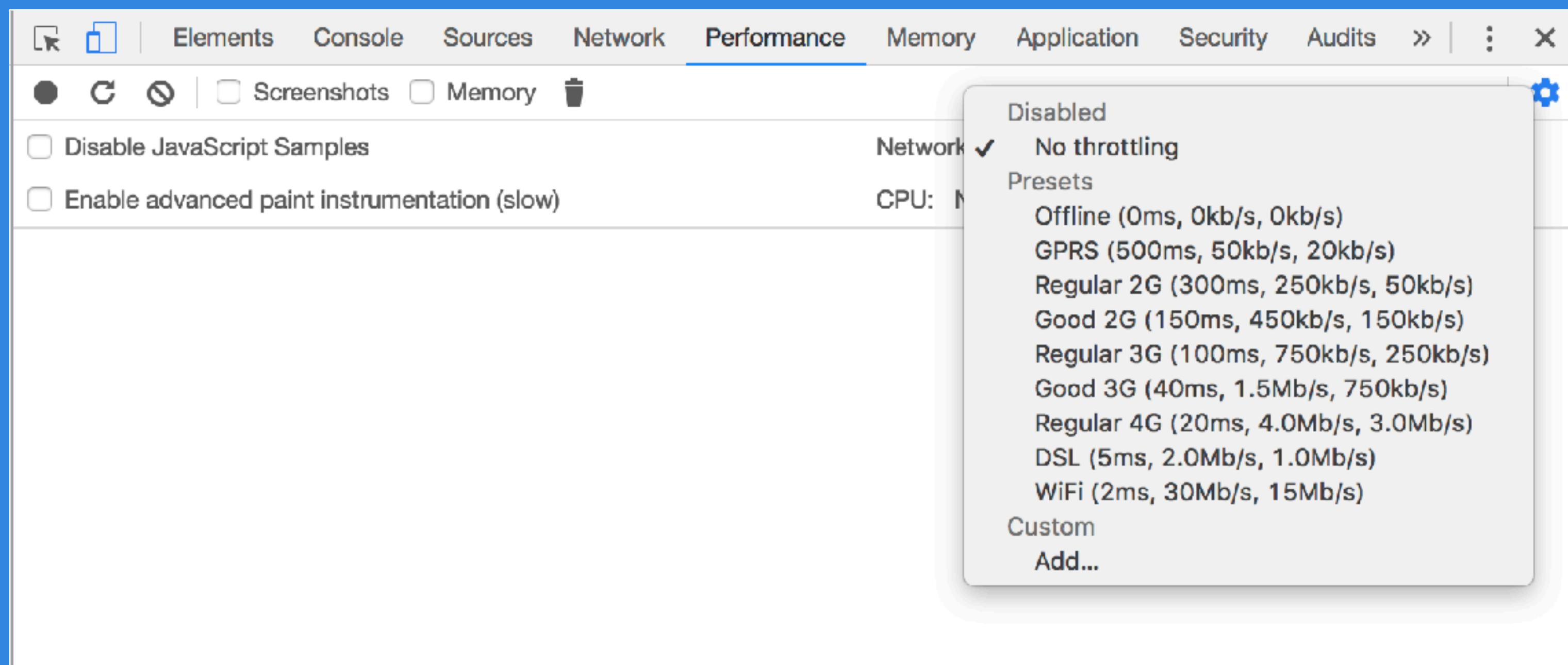
Server

データベースなどの遅延

CPU のスロットリング（処理性能のエミュレート）



ネットワークのスロットリング（帯域性能のエミュレート）



あらゆる多様性の中に
遅い、使いづらい、使えないが潜む

どれくらいなら適切な応答速度と言えるのか？



UI のレスポンス
100ms

ランタイム
アニメーション1f
10ms (16ms)

アイドル中の1処理
50ms

ページロード
1,000ms



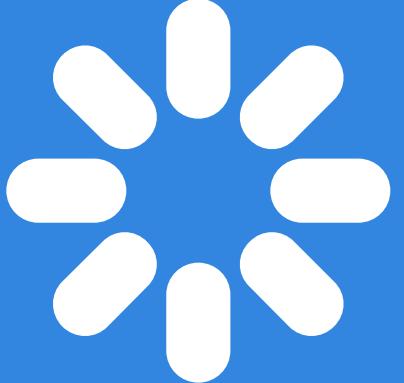
ページロード
コンテンツを早く提供する最適化

ページロードとはすなわち

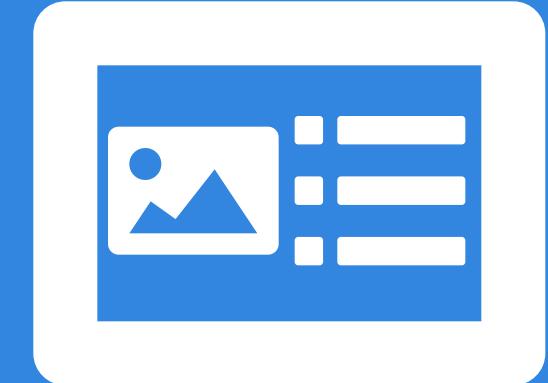
Navigating



Loading



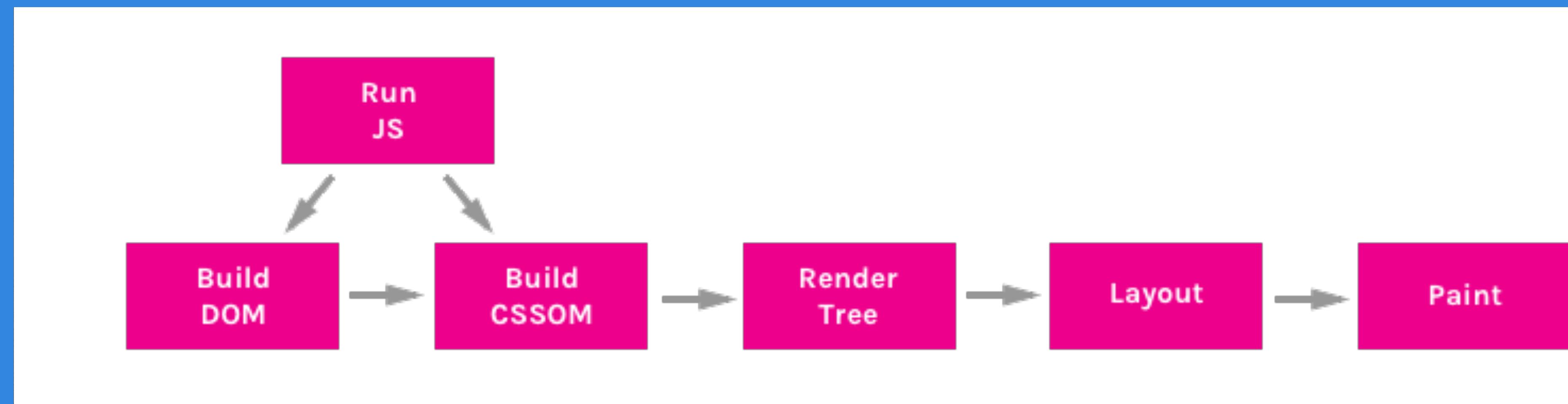
Interacting

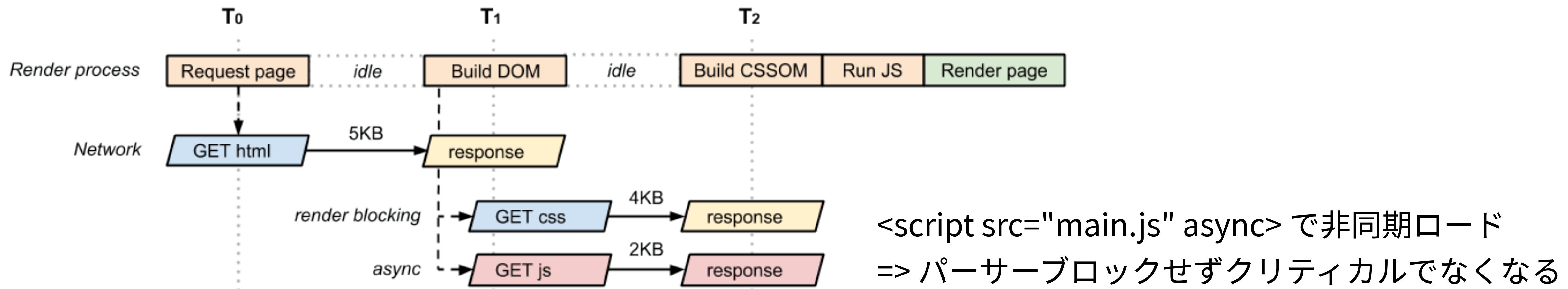
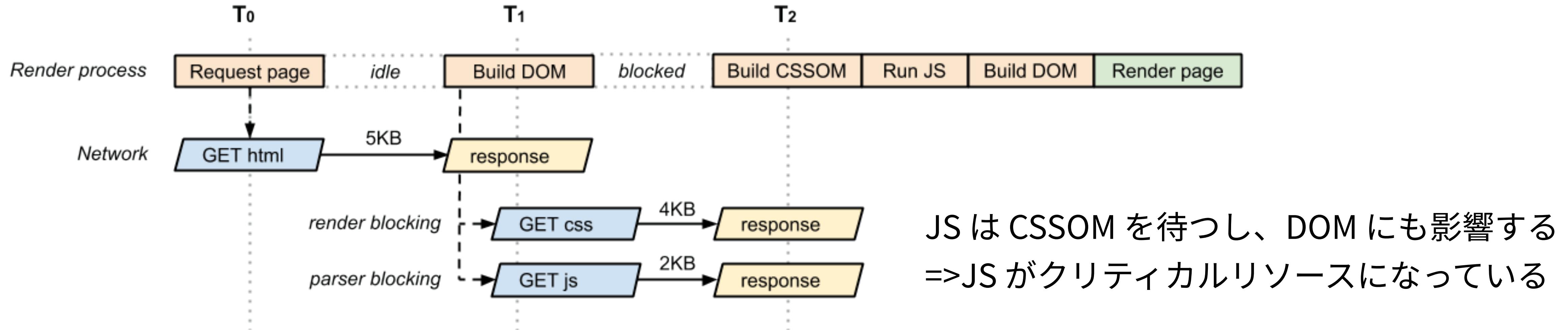


- ▶ ナビゲーションを開始して
- ▶ リソースをダウンロードのち評価して
- ▶ Web ページを実行する（ユーザーが利用可能になる）こと

いわゆるクリティカルレンダリングパス

- ▶ DOM + CSSOM = Render Tree
- ▶ Download resources ... Render pixels ... Transfer bitmaps
- ▶ RAIL の Load だが… 1,000ms にはそうそうおさまらない 😅





クリティカルパスの長さ

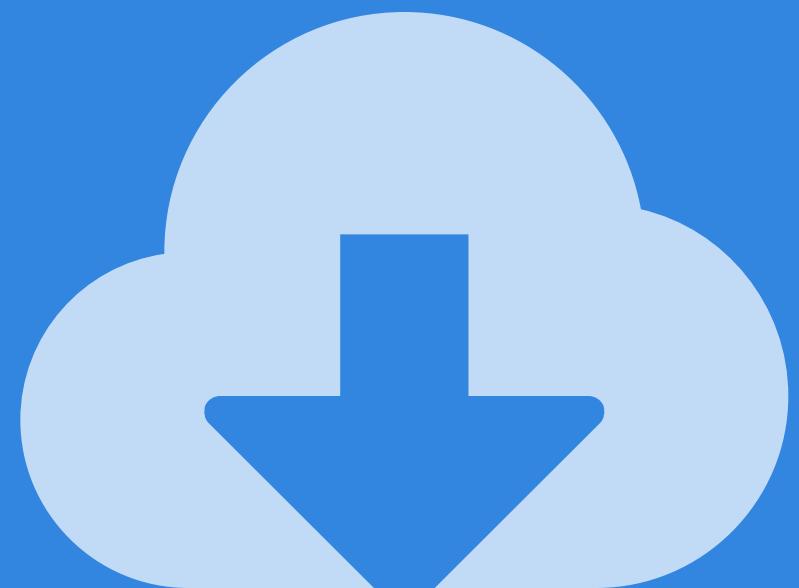
- ▶ HTML は DOM のルートなのでブロックせざるをえない
- ▶ CSS は CSSOM をブロックする
- ▶ JavaScript は DOM も CSSOM もブロックする
- ▶ 各種の遅延ロードはクリティカルパスの短縮にも役立つ

クリティカル リソースの数とサイズ

- ▶ 遅延できる <script> は async または defer する
- ▶ 必要の無いサードパーティスクリプトを読み込まない
- ▶ 初期表示に必要な CSS のみを埋め込む（ややハードル高い）
- ▶ 圧縮およびコードの最小化ができるものはしておく
- ▶ 日本語 Web フォントはテキスト描画を止める最終兵器

ページロードはネットワーク処理が重要？

- リソースが速く届くか、遅く届くかという観点
- リソースの数と、サイズと、転送距離を短くする
- もちろん重要ではあるのだが...



ネットワークの環境と開発者の意識

- ▶ 楽観しきれない日本の通信網（下り平均 20.2 Mbps, モバイル 15.6 Mbps）
 - via. Akamai Q1 2017 State of the Internet Connectivity Report
- ▶ 開発者の意識もそれなりに高まってきている
- ▶ 適切な画像形式で最適化とか、テキストの最小化 + gzip とかみんなやるよね
- ▶ デカい画像、無駄なリソース、ふつーに考えればダメだって分かる

いま敢えて取り上げたいのはデカい JavaScript

- ▶ クライアントサイドにロジックが寄ってきている弊害
- ▶ npm などで依存パッケージの追加も容易になっている
- ▶ Web アプリはもちろんのこと、Web サイトもプラグインまみれで案外ヤバい
- ▶ そして案外、ファイルサイズを気にする人が少ない (要出典)



👤 (· x ·)

❤ Favorites

⚡ LUX

〽 Synthetic

⚙ Settings

💬 Support

📣 Updates

👤 Ayumu

Date

15 SEP

Fri 15th of Sep 2017 00:00:00 JST

Browser

APPLE IPHONE 6

Chrome, 60.0.3112.78

Network

1.6 Mbps

Upload 0.8 Mbps, Latency 300ms

BROWSER WATERFALL

≡ EXPAND

⚙ OPTIONS

Download 4.1s (237kb, 385kb)

1.67s Backend

Visible to the User

14.08s Start Render

14.94s SpeedIndex

15.7s H1 Render

16.2s Largest Image Render

17.2s Visually Complete

21.37s Page Load

22.81s Fully Loaded

Pure Single Page Application (サイトA)

Evaluate 1.4s



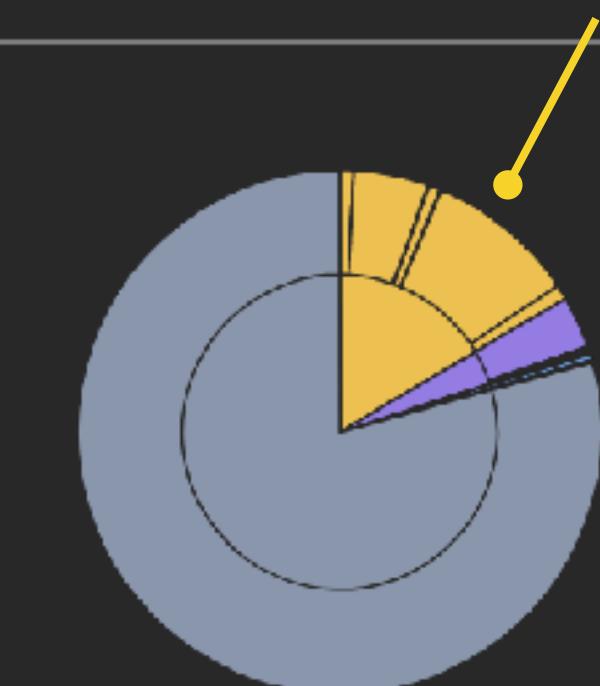
⟳ WebPageTest Results | Timeline Trace | Export HAR

HTML BLOCKING CSS CSS BLOCKING JS JS
IMAGE FONT FLASH OTHER

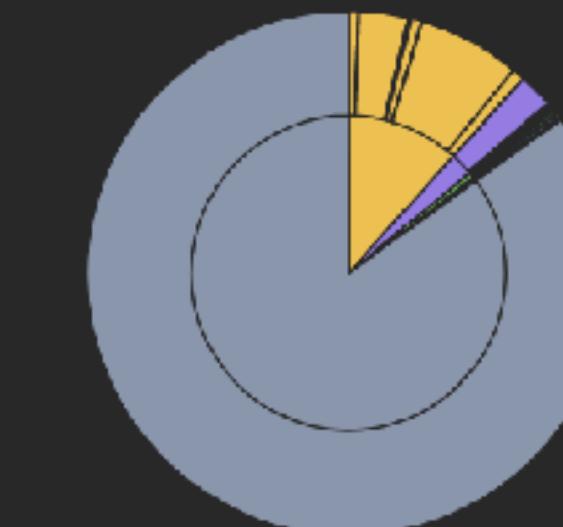


CPU USAGE

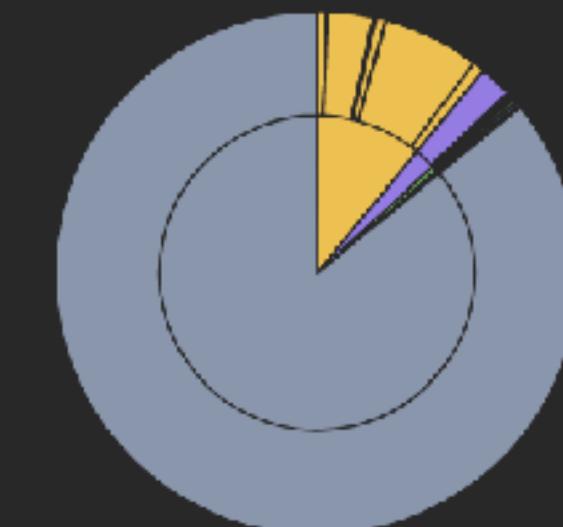
To Start Render

Most of CPU Usage is Scripting...

To Page Load



To Fully Loaded



CONTENT BREAKDOWN

Requests

79

Size

1,783 KB**Pure Single Page Application (サイトA)****JS size is larger than image size...**

HTML	7	10 KB
CSS	1	40 KB
JS	18	904 KB
IMAGE	40	827 KB
FONT	0	0 KB
FLASH	0	0 KB
OTHER	13	2 KB

Support

Updates

Ayumu



👤 (+ 3 +)

❤ Favorites

⚡ LUX

📶 Synthetic

⚙ Settings

💬 Support

▶️ Updates

👤 Ayumu

Date

14 SEP

Thu 14th of Sep 2017 01:00:00 JST

Browser

GOOGLE NEXUS

Chrome, 60.0.3112.78

Network

1.6 Mbps

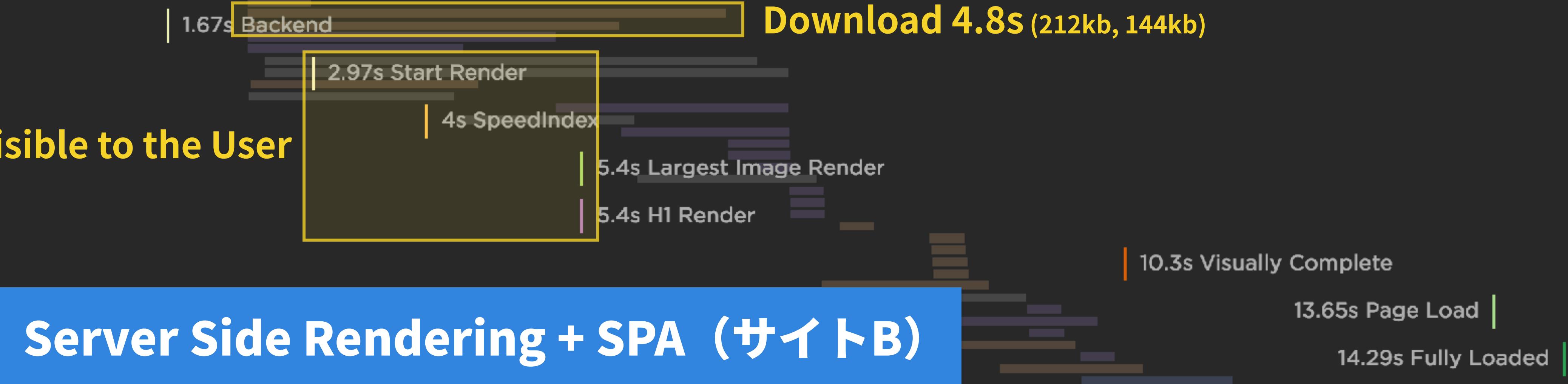
Upload 0.8 Mbps, Latency 300ms

BROWSER WATERFALL

EXPAND

OPTIONS

Visible to the User



⟳ WebPageTest Results | Timeline Trace | Export HAR

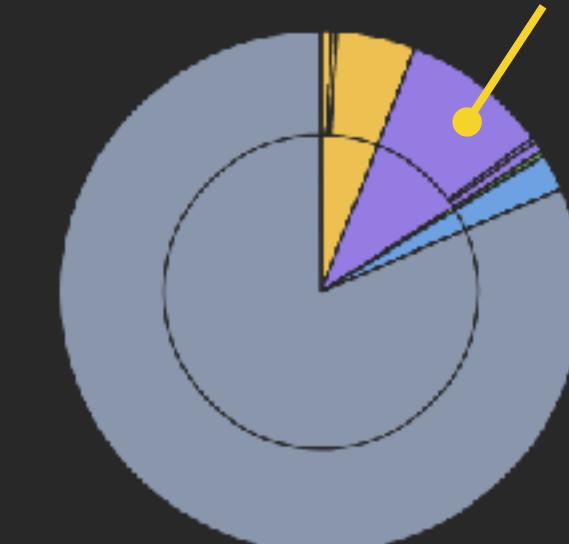
HTML BLOCKING CSS CSS BLOCKING JS JS
IMAGE FONT FLASH OTHER



CPU USAGE

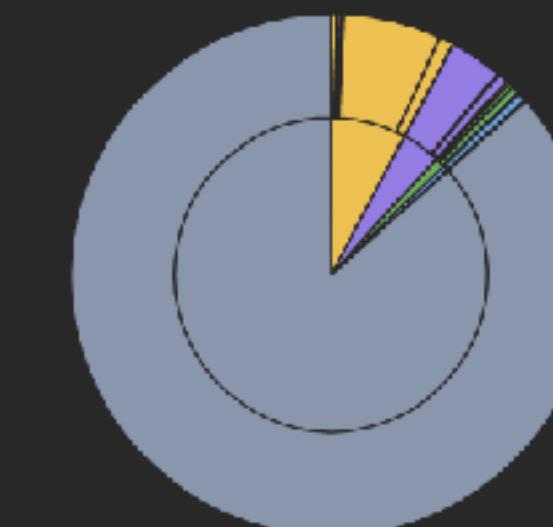
To Start Render

**HTML is provided from SSR,
it contains a lot of layout processing**



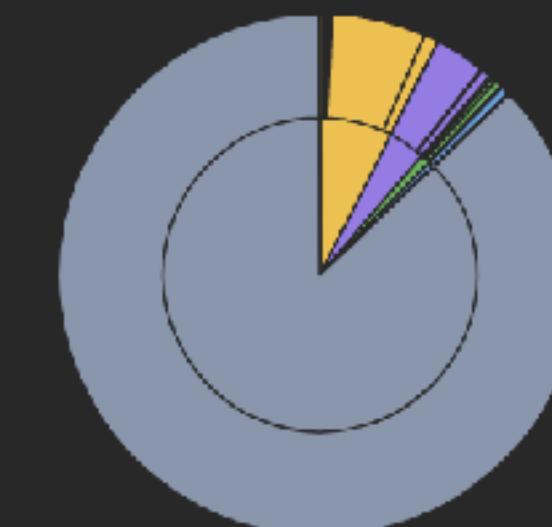
Scripting Layout Painting Loading Other
Idle

To Page Load



Scripting Layout Painting Loading Other
Idle

To Fully Loaded



Scripting Layout Painting Loading Other
Idle

CONTENT BREAKDOWN

Requests

39

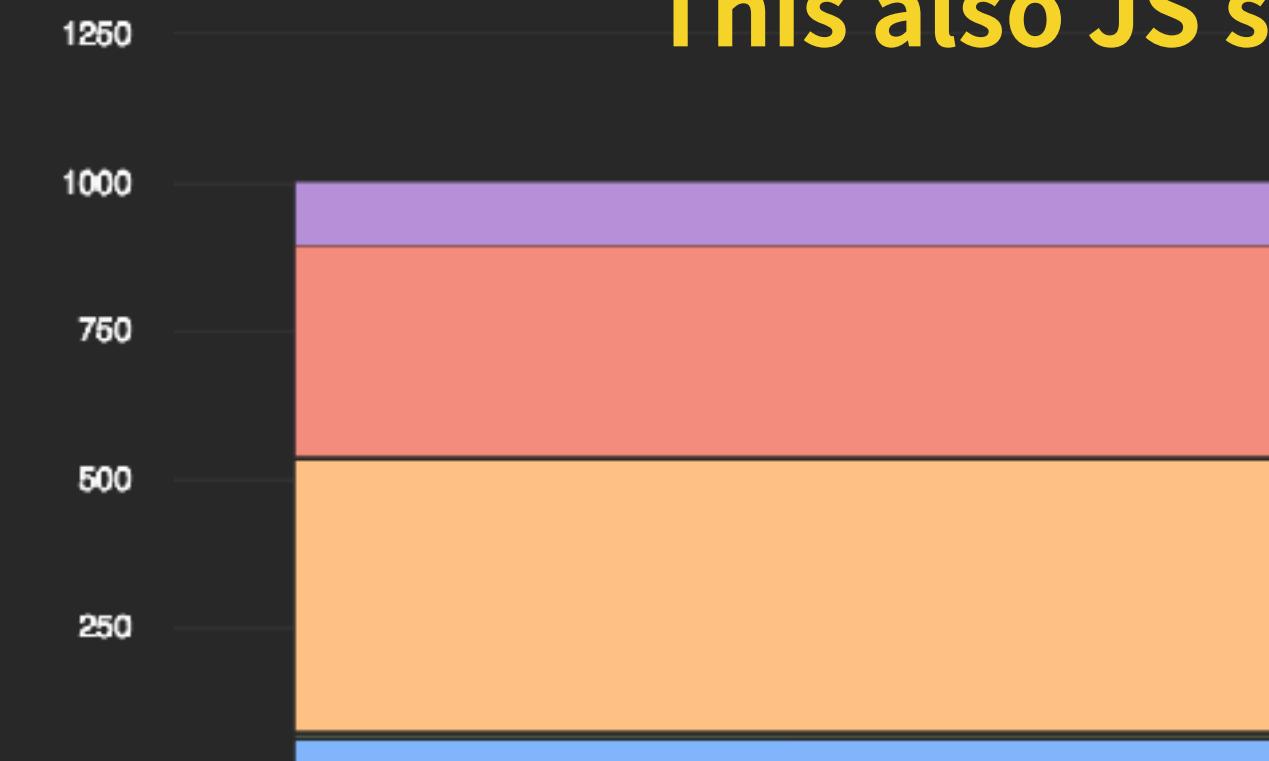
Support

Updates

Ayumu

Server Side Rendering + SPA (サイトB)

Size

1,004 KB

This also JS size is larger than image size

HTML	3	65 KB
CSS	1	9 KB
JS	12	462 KB
IMAGE	17	108 KB
FONT	2	359 KB
FLASH	0	0 KB
OTHER	4	1 KB

PERFORMANCE IMPROVEMENTS

JavaScript の初期化コストこわい

- ▶ 100kb の画像より 100kb の JS のほうが殺傷力をもつ
 - ダウンロードもパースも実行も大変なコスト
- ▶ ライブラリ選定時はファイルサイズも気をつけないと容易に破綻する
- ▶ webpack の code splitting みたいなのは必要な機能
- ▶ SSR も表示が速いだけで操作可能になるまでには時間がかかる

※ minify 適用後、gzip 適用前

lodash: 190 KB (12.5%)

react-dom: 183 KB (12.0%)

rx: 154 KB (10.1%)

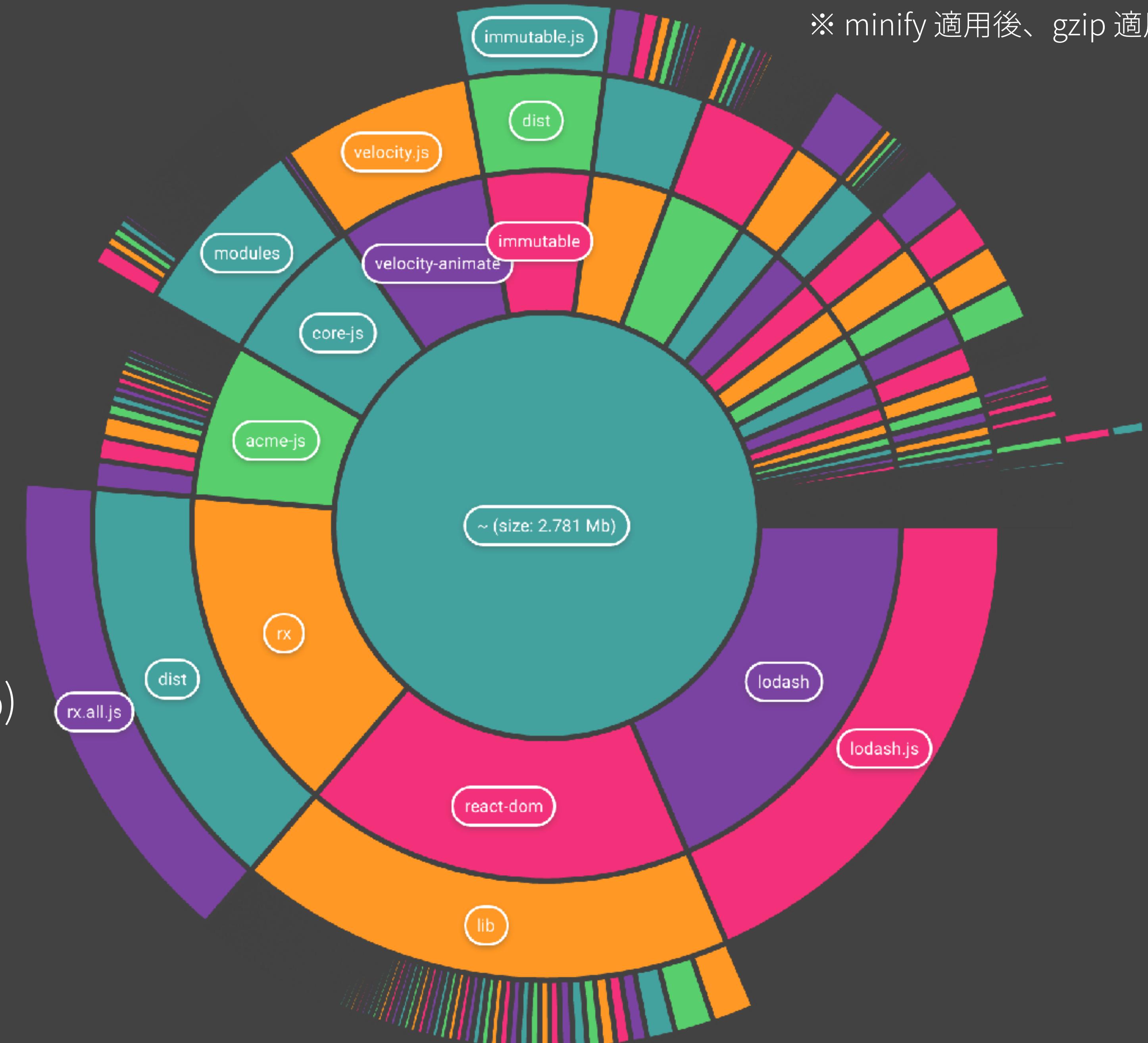
acme-js: 72KB (4.78%)

core-js: 70 KB (4.69%)

velocity-animate: 70KB (4.61%)

immutable: 49 KB (3.30%)

react: 37 KB (2.46%)





Addy Osmani

Follow

Senior Staff Engineer at Google working with the Chrome team • Creator of TodoMVC, Yeoman, Mat...

Feb 10 · 12 min read

JavaScript Start-up ~~PERFORMANCE~~

<https://medium.com/reloading/javascript-start-up-performance-69200f43b201>



Never miss a story from **reloading**, when you sign up for Medium. [Learn more](#)

GET UPDATES

ページロードに関するトピック

HTTP/2 多くの方がご存じでしょうが...

- ▶ 多重化による並列性の向上、ヘッダの HPACK 圧縮、サーバープッシュ etc...
- ▶ ただ入れるだけでは HTTP/2 の恩恵はより大きい問題によって誤差になりうる
- ▶ ドメインシャーディング不要とか concat 不要とか言われている
 - HTTP/1 でもデカい concat は NG、更新性があるならキャッシュヒット率も下がる

zopfli, brotli どっちもスイスのパンの名前らしい

- ▶ **zopfli** は deflate 互換で、いくらか圧縮率が高い
 - つまり Accept-Encoding: gzip なクライアント相手なら使える
 - 通常の gzip よりも時間をかけて丁寧に圧縮するスタイル → gzip_static も検討すると良い
- ▶ **brotli** は新規のアルゴリズムで、zopfli より更に高圧縮
 - Accept-Encoding: br を返せるのは Edge, Firefox, Chrome、もうすぐ Safari も

ES Modules 主要ブラウザで有効になるまであとちょっと？

- ▶ `import mod from './mod.js'` をブラウザ上でも解決可能になる
 - Import のパス指定のとおり JavaScript がロードされるようになる
- ▶ HTTP/2 と抱き合いで Concat 不要論の完成に必要な最後のパツ
- ▶ Polymer すら HTML Imports に別れを告げて ES Modules と握手した

ES modules 対応ブラウザ向けのブートストラップファイル

```
<script type="module" src="main.js"></script>
```

ES modules 未対応ブラウザ向けのバンドルファイル

```
<script nomodule src="main-bundled.js"></script>
```

See also 💡 Node.jsのES Modulesサポートの現状確認と備え - teppeis blog
<http://teppeis.hatenablog.com/entry/2017/08/es-modules-in-nodejs>

Preload, Resource Hints なんとなく似てるけど別仕様

- ▶ **Preload** は現在のページのために指定リソースを優先してロードする
- ▶ **Resource Hints** は以降のページのために投機的処理をする
 - dns-prefetch: DNS 解決の事前処理
 - preconnect: TCP 接続の事前処理
 - prefetch: リソース取得の事前処理
 - prerender: ページのレンダリングの事前処理(!!)

CSS 評価前に Preload で Web フォントの先行ロード

Web フォント待ちで発生するテキストのレンダリングブロックを軽減

```
<link rel="preload" href="font.woff" as="font" crossorigin>
```

```
<link rel="stylesheet" href="main.css">
```

Resource Hints 各位

```
<link rel="dns-prefetch" href="//cdn.example.com">
```

```
<link rel="preconnect" href="https://api.example.com">
```

```
<link rel="prefetch" href="/libs.js" as="script">
```

```
<link rel="prerender" href="/next-page.html">
```

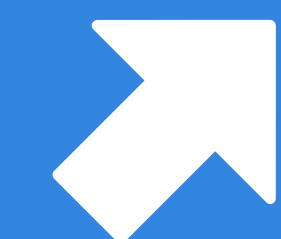
計測と評価指標

Synthetic Monitoring

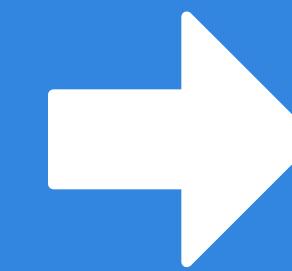
- ▶ 特定環境から Web サイトにアクセスしてデータを収集
- ▶ 現実のユーザではないが速度の上下を評価しやすい
- ▶ 端末や回線など条件をコントロールできる
- ▶ 詳細な情報をとれるので開発者はありがたい



クラウド上のエージェント



Web サイトに
アクセスして計測



計測データを集積

Real User Monitoring

エンドユーザ環境で情報取得

- ▶ エンドユーザの端末上で記録したデータを収集
- ▶ 実際にユーザが体験した値をとれる
- ▶ 詳細なプロファイルを見るものではない
- ▶ KPIとの関連を見るならこっちのほうが良い



Navigation Timing API, Resource Timing API

```
dumpTiming(performance.timing);
performance.getEntriesByType('resource').forEach(dumpTiming);

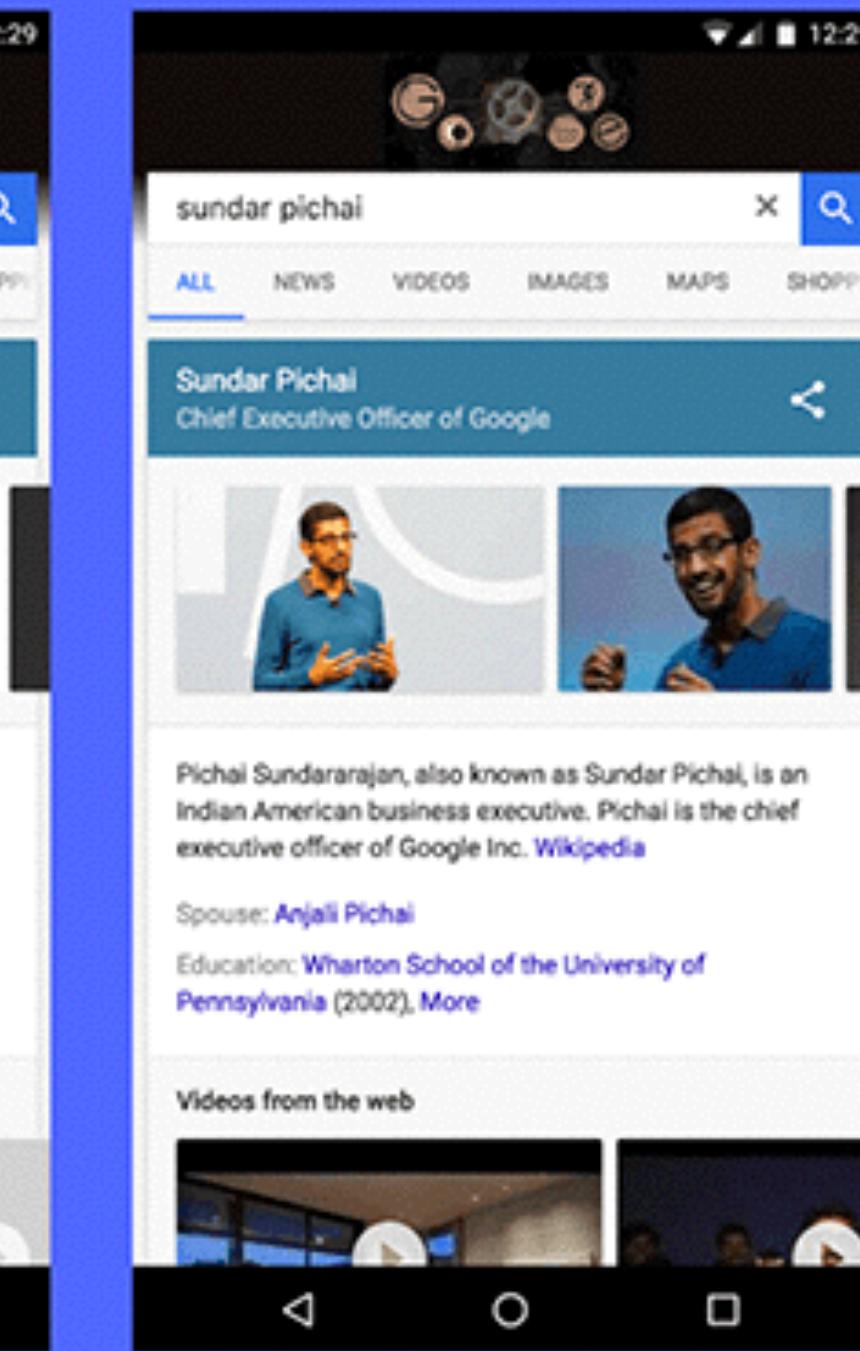
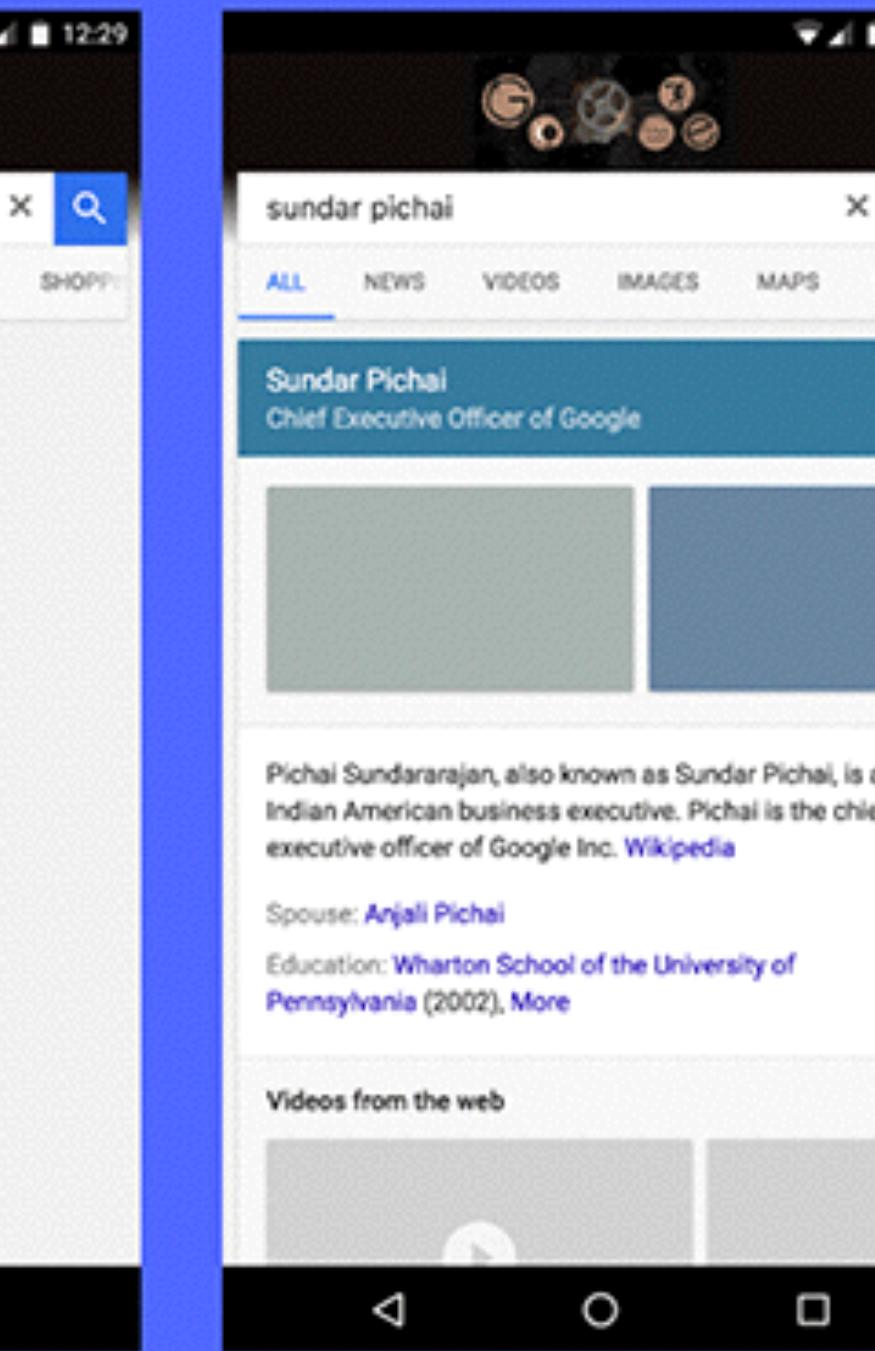
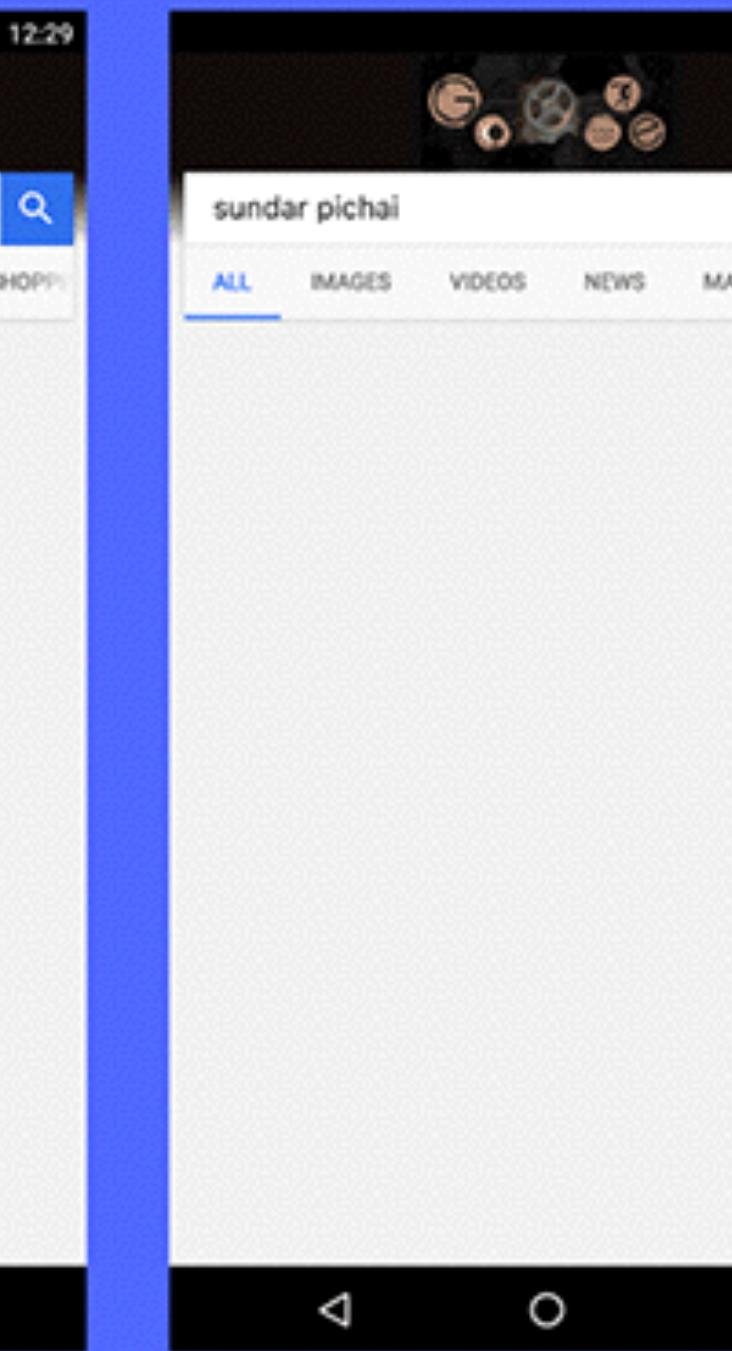
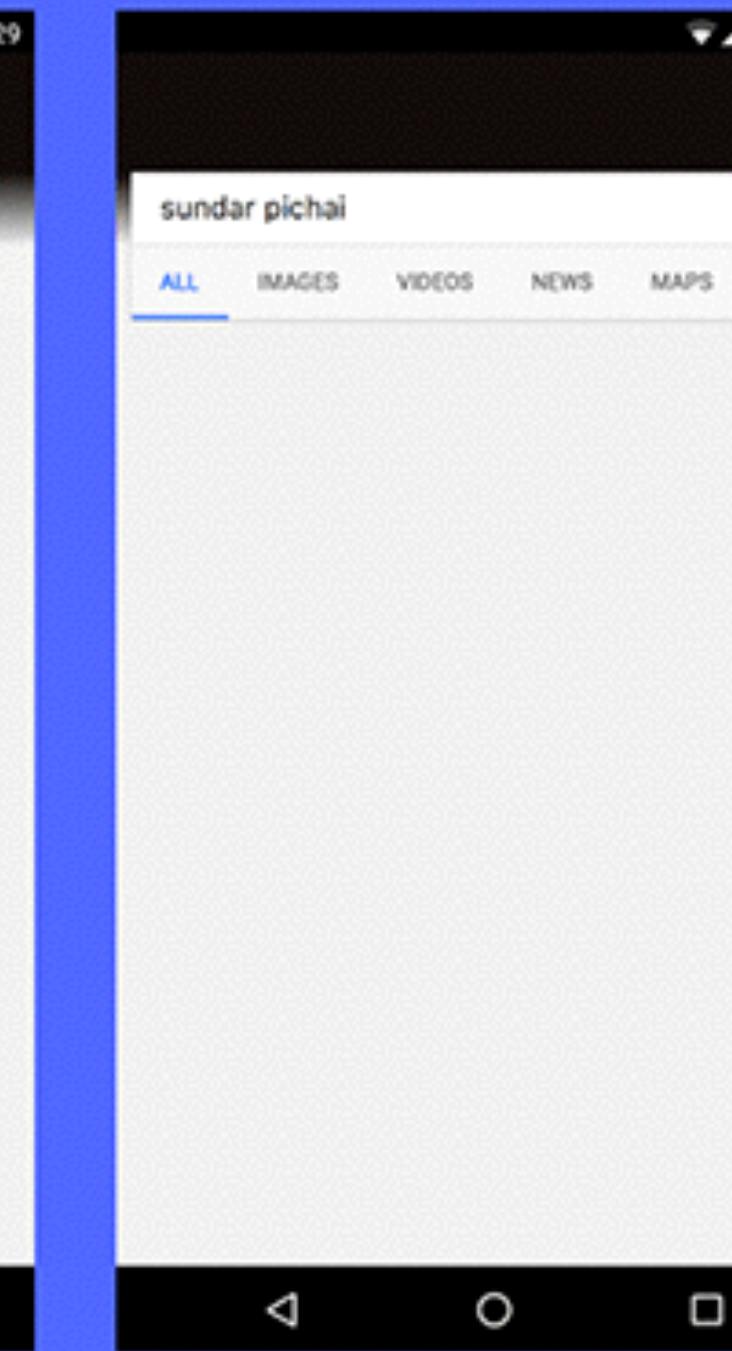
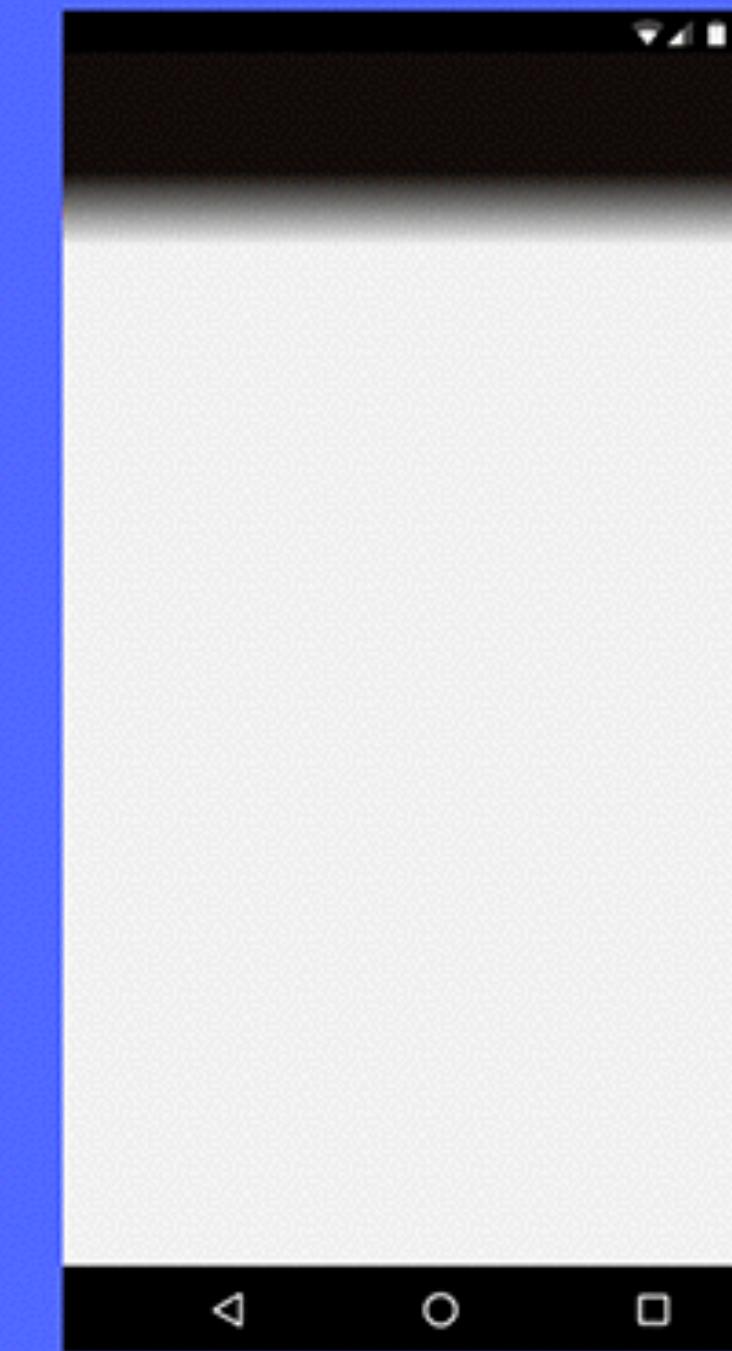
// ナビゲーションまたはリソースのロードにおける各フェーズの所要時間を出力
function dumpTiming(timing) {
  console.log(`

    Name:      ${timing.name || location.href}
    Unload:    ${timing.unloadEventEnd - timing.unloadEventStart}
    Redirect:  ${timing.redirectEnd - timing.redirectStart}
    DNS:       ${timing.domainLookupEnd - timing.domainLookupStart}
    TCP:       ${timing.connectEnd - timing.connectStart}
    Request:   ${timing.responseStart - timing.requestStart}
    Response:  ${timing.responseEnd - timing.responseStart}
    Processing: ${timing.loadEventStart - timing.responseEnd}
    OnLoad:    ${timing.loadEventEnd - timing.loadEventStart}`);
}
```

「ざっくり分かった気になれる指標」の変遷

古代 ブラウザイベント期	DOMContentLoaded load	ブラウザイベントで代用していた 相関性はあるが本当に見たい値ではない
近代 ビジュアル描画の計量期	Start Render (First Paint) Speed Index	描画処理のタイミングに関心が移った WebPagetest が流行り始める
現代 ユーザー体験期	First Contentful Paint First Meaningful Paint Time to Consistently Interactive	よりユーザー体験と直結する指標が登場 意味が伝わる表示になったタイミング? 実際に利用可能になったタイミング?

See also 💡 Web クライアントサイドのパフォーマンスマトリクス :: ハブルぐ
https://havelog.ayumusato.com/develop/performance/e744-performance_metrics.html



First Paint
(FP)

First Contentful
Paint (FCP)

First Meaningful
Paint (FMP)

Time to
Interactive (TTI)

Paint Timing API による FP と FCP の取得

```
const observer = new PerformanceObserver((list) => {
  for (const entry of list.getEntries()) {
    // `name` will be either 'first-paint' or 'first-contentful-paint'.
    const metricName = entry.name;
    const time = Math.round(entry.startTime + entry.duration);

    ga('send', 'event', {
      eventCategory: 'Performance Metrics',
      eventAction: metricName,
      eventValue: time,
      nonInteraction: true,
    });
  }
});
// Start observing paint entries.
observer.observe({entryTypes: ['paint']});
```

Performance

These encapsulate your app's performance.

67

Metrics

These metrics encapsulate your app's performance across a number of dimensions.

687 ms

1.4 s

2.1 s

2.8 s

3.4 s

4.1 s

4.8 s

5.5 s

6.2 s

6.9 s



▶ First meaningful paint **3,440 ms**

▶ First Interactive (beta) **5,870 ms**

▶ Consistently Interactive (beta) **5,870 ms**

▶ Perceptual Speed Index: 4,914 (target: < 1,250)

56

▶ Estimated Input Latency: 148 ms (target: < 50 ms)

18

Opportunities

These are opportunities to speed up your application by optimizing the following resources.

▶ Properly size images

1,240 ms**241 KB**

▶ Offscreen images

680 ms**132 KB**

プロダクトによって本当に必要な指標は？

- ▶ さきほどの一般的な指標だけでは知りたいことが知れないことがある
- ▶ 速く表示されるのはもちろん、速く動画が再生開始してほしい、とか
- ▶ そこで User Timing API の出番

User Timing API で任意の2点間の所要時間を計測する例

```
let reqCount = 0;
const req = new XMLHttpRequest();
req.open('GET', url, true);
performance.mark('mark_start_xhr');
req.onload = (e) => {
  performance.mark('mark_end_xhr');
  reqCnt++;
  performance.measure(
    `measure_xhr_${reqCnt}`, 'mark_start_xhr', 'mark_end_xhr'
  );
  do_something(e.responseText);
}
req.send();

const entries = performance.getEntriesByType('measure');
entries.forEach((e)=>console.log(`XHR ${e.name} took ${e.duration}ms`))
```

予算の設定と定常的な計測

- ▶ ピンポイントで速くするミッションが必要なこともあるにはあるが
- ▶ 予算(基準値)を決め、それよりも遅くならないよう運用するのがベースライン
- ▶ 日常に数字と向き合ってこそ真っ当な高速化の手が打てる
- ▶ 有料だけど SpeedCurve はお手軽で開発者が好きそうな感じ

See also  Performance Budget Metrics

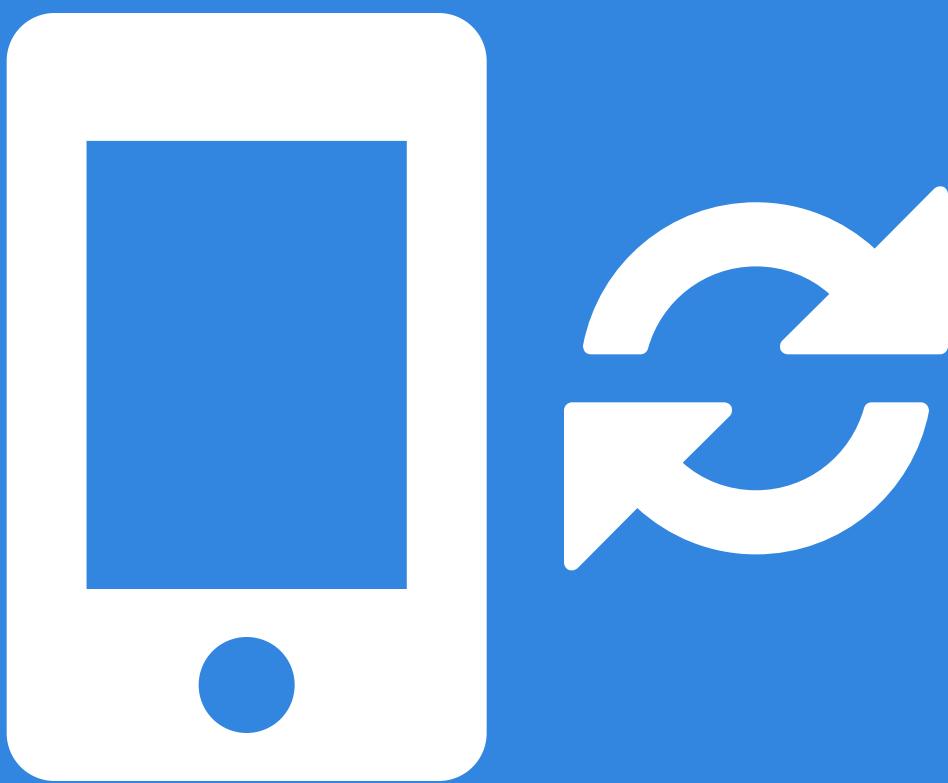
<https://timkadlec.com/2014/11/performance-budget-metrics>

A close-up photograph of a bowl of ramen. The bowl is white and filled with a rich, brown broth.浮游着る。The ramen consists of thin, light-colored noodles. It is garnished with fresh green onions cut into small pieces and a large bunch of cilantro. A pair of chopsticks is resting on the left side of the bowl. The background is dark, making the bright colors of the ramen stand out.

ランタイム
滑らかに動く UI と快適な操作感

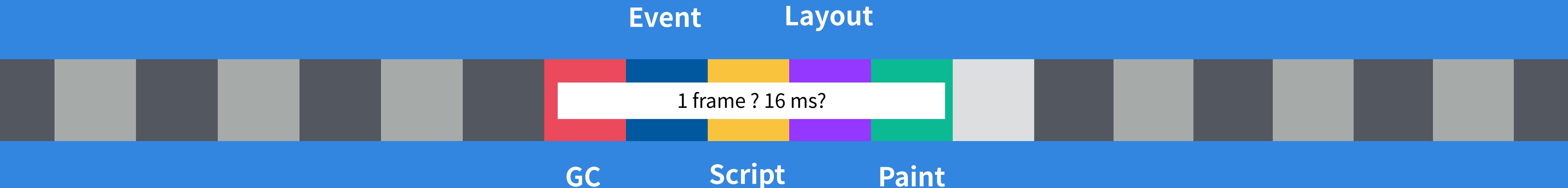
ランタイム

- ▶ UI やアニメーションが滑らかに動くか
 - FPS、RAIL の Animation 16ms
- ▶ ユーザインプットに迅速に反応できるか
 - RAIL の Response 100ms と Idle 50ms



シングルスレッドな世界と向き合って生きる

- ▶ ブラウザはシングルスレッド、何かが長い処理をすれば他の処理は遅れる
- ▶ アニメーションのための処理が重いと、実際の画面の更新が遅れる
- ▶ 何かが処理を占有していると、ユーザーインプットへの応答が遅れる



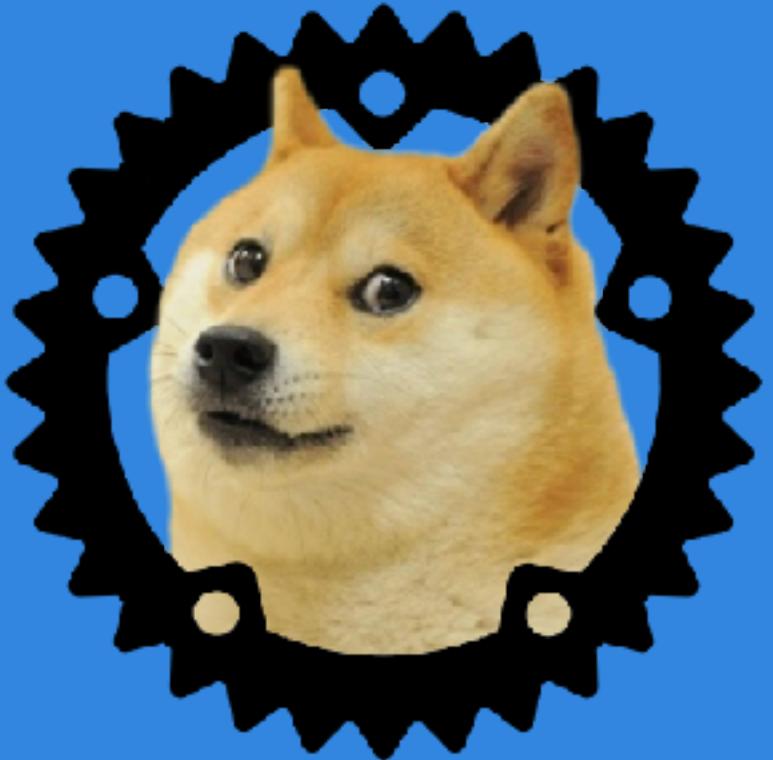
対策はいくつがある

- ▶ とにかく処理を軽く、短くする
- ▶ メインスレッドを長々と占有してしまうような処理を潰していく
 - イベントループ的に他の処理が割り込めるよう分割する (setTimeout とか)
 - 並列化できる処理は他のスレッドに逃がす (WebWorker とか)

レンダリングエンジンの開発側も色々やっている

- ▶ 特定の処理を専用スレッドに切り出して並列化させたり
 - Blink だと Raster Thread, Compositor Thread, ScriptStreamerThread とか
- ▶ レンダラのタスクを今よりも小さいチャunkに分割したり
- ▶ Mozilla の Project Quantum は名前がついていて有名な一連の取り組み

Project Quantum



- ▶ 実験場である Servo の成果を、コンポーネントとして Gecko に取り込む
- ▶ Quantum CSS (Stylo): スタイル処理とセレクタマッチの並列化
- ▶ Quantum Render: OpenGL ベースで CSS に特化したレンダラへの置き換え
- ▶ Quantum Compositor: Compositor のスレッドからプロセスへの独立
- ▶ Quantum DOM: 各タブのマルチプロセス&スレッド化とスケジュール管理
- ▶ etc...

See also 💡 MozillaはQuantumプロジェクトで過去と訣別し、未来に賭ける
<http://rockridge.hatenablog.com/entry/2016/11/05/020802>

ランタイムの特にレンダリング周りで
発生する一般的な問題...

Speaker Deck

Published on Nov 30, 2013

Web Frontend Rendering Performance

Knowledge & Tips

HTML5 Conference

CyberAgent, Inc. Ayumu Sato

なんと HTML5 Conference 2013 で発表した内容がまだ賞味期限内です

SpeakerDeck

Web Frontend Rendering Performance Knowledge & Tips

by Ayumu Sato

Published November 30, 2013



Ayumu Sato
32 Presentations

★ Star this Talk 45 Stars

Published in Programming

Stats 8,053 Views

Edit this presentation

Share

Twitter, Facebook

Embed

Direct Link

Download PDF

Web Frontend Rendering Performance Knowledge & Tips

by Ayumu Sato

Published November 30, 2013

YouTube

<https://www.youtube.com/watch?v=cBT1Are3jXE>

ランタイムに関するトピック

Intersection Observer スクロール同期処理の救世主

- ▶ ある要素を observe して対象が画面に出たり入ったりすると callback する
- ▶ 従来の getBoundingClientRect と clientWidth/Height のロジックから解放
- ▶ JS からレイアウト情報に参照する際のコーディングリスクを軽減できる
 - リスク = レイアウトの過剰な再計算、いわゆる Forced Layout や Layout Thrashing

従来の要素の画面内の出入検知

```
const target = document.getElementById('target');
let viewport = getViewportSize();
function getViewportSize() {
  return {
    width: document.documentElement.clientWidth,
    height: document.documentElement.clientHeight
  };
}
window.addEventListener('scroll', () => {
  const { width, height } = viewport;
  const rect = target.getBoundingClientRect();
  // 水平方向において要素の一部または全部が画面内に存在し得るか
  const isInHorizontal = rect.left > 0 && rect.left < width ||
    rect.right > 0 && rect.right < width ||
    rect.left < 0 && rect.right > width;
  // 垂直方向において要素の一部または全部が画面内に存在し得るか
  const isInVertical = rect.top > 0 && rect.top < height ||
    rect.bottom > 0 && rect.bottom < height ||
    rect.top < 0 && rect.bottom > height;
  // 要素の一部または全部が画面内に存在するか
  if (isInHorizontal && isInVertical) console.log('要素が画面内に入りました');
  else console.log('要素が画面内から出ました');
}, false);
```

IntersectionObserver で同じことを実現する

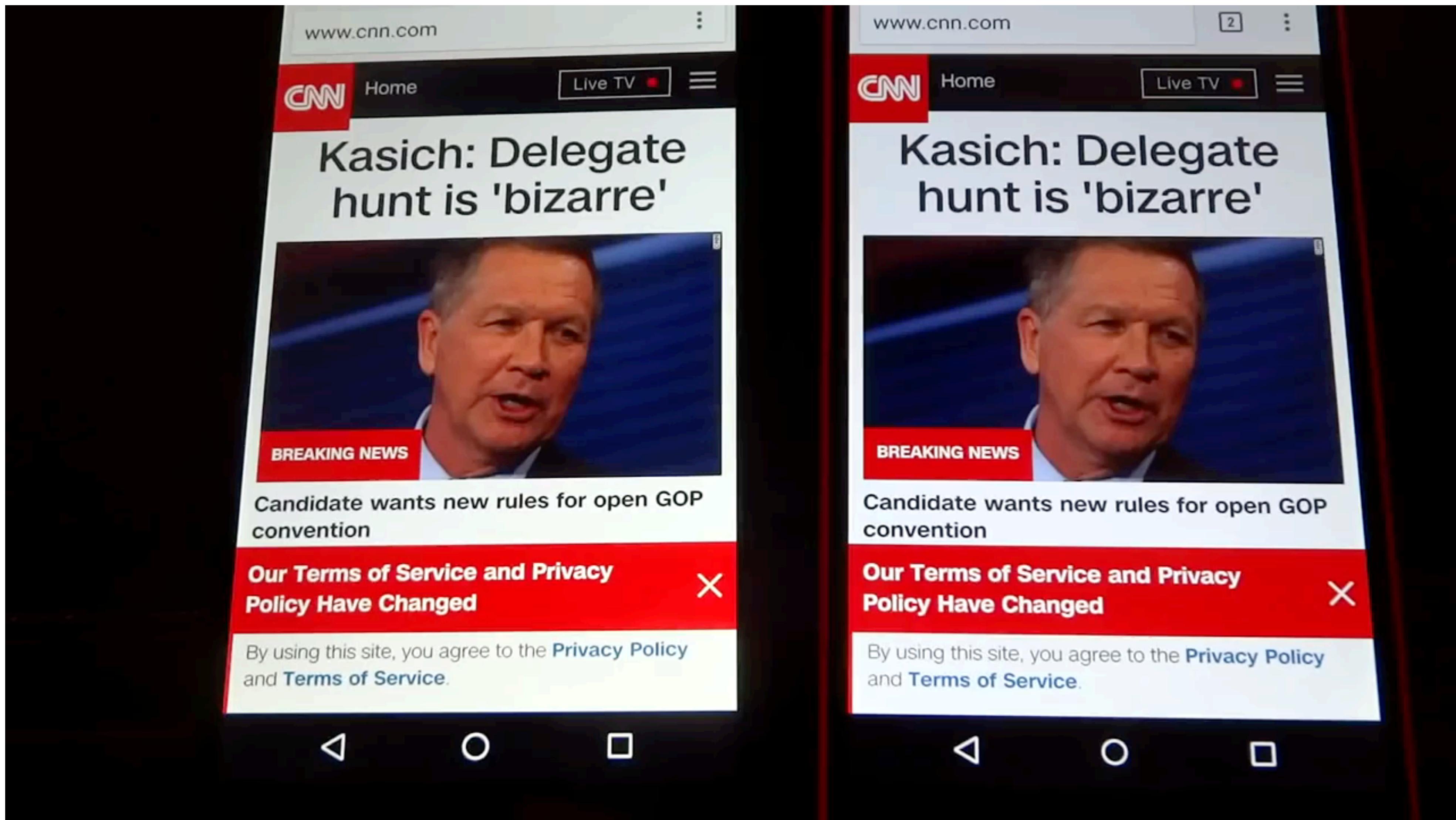
```
const target = document.getElementById('target');
const observer = new IntersectionObserver(entries => {
  const entry = entries[0];

  // 要素が少しでも画面内に入っていれば真
  if (entry.intersectionRatio > 0) {
    console.log('要素が画面内に入りました');
  } else {
    console.log('要素が画面内から出ました');
  }
});
observer.observe(target);
```

Passive Event Listeners スクロールジャンクを軽減

- ▶ touchmove や mousewheel などはデバイスの操作と同期して発生する
- ▶ e.preventDefault() に備えて、画面更新の前にハンドラの処理待ちがある
- ▶ 🤝 を呼び出さないことを保証すれば、スムーズに画面更新できる

```
element.addEventListener('touchmove', handler, {  
  passive: true  
});
```



Scroll jank due to touch/wheel handlers demo

[View on GitHub](#)

Instructions

The log shows the touch/wheel events which block scrolling (have cancelable=true).

Scroll the page, observing the latency associated with each event.

The 'running' animation represents the responsiveness of the JavaScript thread. Jank can be added to this thread as a regular repeating pattern ("periodic jank"), and/or directly inside of each touch/wheel handlers ("handler jank").

In Chrome 51+ and Safari 10, the touch/wheel listeners can be marked as passive to keep them from being able to block the scroll.

When working properly (eg. [Chrome 49+](#)) this demo will be able to measure both types of jank.

Safari 9+ appears to work well (though only at millisecond precision and with possible issues with NTP skew).

Scroll performance resources

- <https://blog.chromium.org/2016/05/new-apis-to-help-developers-improve.html>
- [Jank Free](#)
- [HTML5 Rocks - Scrolling Performance](#)
- [How to Use the Timeline Tool](#)
- [Measuring Webpage Jank](#)



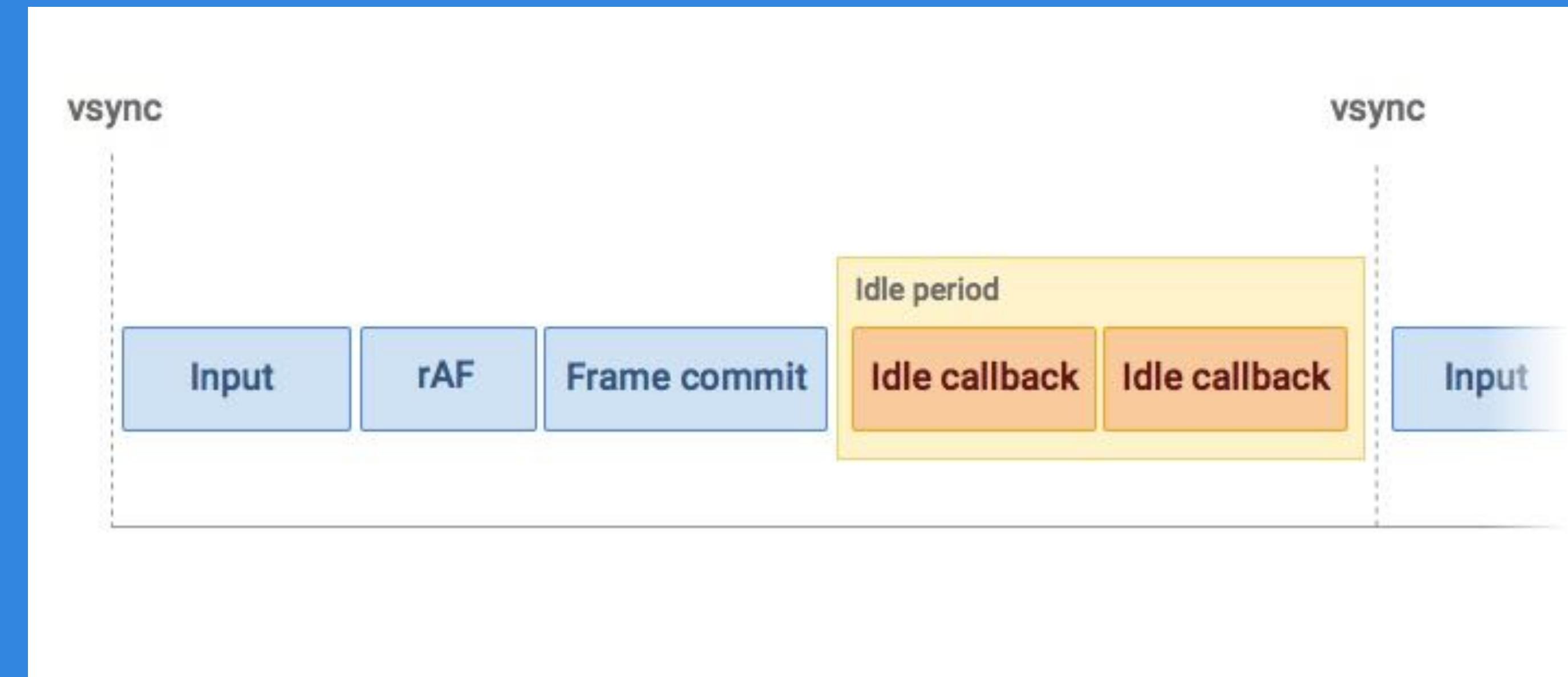
Periodic jank: ms
Handler jank: ms
Touch listener:
passive preventDefault
show non-blocking events

Running

wheel: 22.075ms
wheel: 20.795ms
wheel: 21.29ms
wheel: 22.145ms
wheel: 20.945ms
wheel: 22.39ms
wheel: 22.775ms
wheel: 21.335ms

requestIdleCallback

- ▶ 処理すべきタスクがなく完全に入力待ちのとき(Idle)に発火するコールバック
- ▶ setTimeout(fn, 0) より恣意的
- ▶ フレームの更新を優先できる
- ▶ 使い道は色々ありそう



requestIdleCallback で暇なときに最大 50ms 仕事をする

```
function myNonEssentialWork (deadline) {  
  
    // rIC の持ち時間は 50ms であり、timeRemaining() はその残り時間を返す  
    while (deadline.timeRemaining() > 0 && tasks.length > 0) {  
        tasks.shift();  
    }  
  
    if (tasks.length > 0) {  
        requestIdleCallback(myNonEssentialWork);  
    }  
}  
  
requestIdleCallback(myNonEssentialWork);
```

CSS Will Change 正しく使わないと副作用があるけど便利

- ▶ その要素に変更が発生することを、ブラウザに予告するプロパティ
- ▶ 亂暴にいうと transform: translate3d(0, 0, 0) ハックの正式版
- ▶ GPU アクセラレーションなど、ブラウザが勝手に最適化するためのマーキング

```
.element {  
  transform: scale(1);  
  will-change: transform;  
}  
.element.clicked {  
  transform: scale(2);  
}
```

See also  CSS will-changeプロパティについて知っておくべきこと
<https://dev.opera.com/articles/ja/css-will-change-property/>

The screenshot shows a web browser window with the address bar displaying "webkit.org". The main content area features a background image of fallen autumn leaves. Overlaid on this are several large, semi-transparent leaves that appear to be floating or falling. The text on the page reads:

39

Fall leaves are beautiful...
on someone else's lawn.

Dino's Lawn Care

555-2143

The right side of the image shows the "Elements" tab of a CSS developer tools interface. The element hierarchy is visible, starting from the root node and descending through various HTML elements and their corresponding CSS styles. The styles for the floating leaves are particularly detailed, showing complex animation properties like "fade" and "drop" with specific duration and delay values. A note in the code explains that each leaf's properties take two values to match a setting for fade and drop.

```
<html>
  <head>...</head>
  <body>
    <div id="container">
      <!-- The container is dynamically populated using the init function in leaves.js -->
      <!-- Its dimensions and position are defined using its id selector in leaves.css -->
    <div id="leafContainer">
      <div style="top: -100px; left: 44px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 6.5389078780020355s, 6.5389078780020355s; animation-delay: 4.297188865940517s, 4.297188865940517s;">...</div>
      <div style="top: -100px; left: 397px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 10.670058927065462s, 10.670058927065462s; animation-delay: 0.5083981020642153s, 0.5083981020642153s;">...</div>
      <div style="top: -100px; left: 360px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 9.38217629793819s, 9.38217629793819s; animation-delay: 0.021729009025197588s, 0.021729009025197588s;">...</div>
      <div style="top: -100px; left: 467px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 8.02000840889303s, 8.02000840889303s; animation-delay: 1.9996348517633407s, 1.9996348517633407s;">...</div>
      <div style="top: -100px; left: 129px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 5.966612956060242s, 5.966612956060242s; animation-delay: 3.8822849141040425s, 3.8822849141040425s;">...</div>
      <div style="top: -100px; left: 12px; animation-name: fade, drop; animation-duration: 4.9036375873597935s, 4.9036375873597935s;">...</div>
```

CSS Containment 伝わらない CSS プロパティ第1位（※個人の感想）

- ▶ スタイル、レイアウト、描画の計算範囲を限定して最適化できる
- ▶ ある要素内の状態による外界への影響を封じ込めるプロパティ
 - `contain: size` → 指定された要素のサイズがコンテンツ、子孫要素に影響されなくなる
 - `contain: layout` → 指定された要素が親兄弟要素のレイアウトに影響を与えなくなる
 - `contain: style` → 指定された要素の外に影響を及ぼす一部のスタイルを内側で完結させる
 - `contain: paint` → 指定された要素の境界の外側に子孫要素がペイントされなくなる

Hello, CSS Containment!

1. contain: size
 2. contain: layout
 3. contain: style
 4. contain: paint
 5. height: 100px

I'm a Container's child!

Hello, CSS Containment Playground

<https://codepen.io/ahomu/full/ZpKGrN/>

This is Container

6. list item

7. list item

8. list item

I'm floating child. Neque porro quisquam est qui
dolorem ipsum quia dolor sit amet, consectetur,
adipisci velit

I'm floating child.. Neque porro quisquam est qui dolorem ipsum quia dolor sit amet, consectetur, adipisci velit

I'm floating child... Neque porro quisquam est qui dolorem ipsum quia dolor sit amet, consectetur, adipisci velit

References

9. CSS Containment Module Level 3

10. CSS Containment in Chrome 52 – Dev Channel – Medium



まとめ

言いたかったこと

- ▶ とにかく最近のデカい JavaScript には気をつけておくと良い
- ▶ ページロードの計測指標を知っておくと「なにが速いのか」が判断できて良い
- ▶ ランタイムは色々と API が充実してきてるからキャッチアップしとくと良い
- ▶ 具体的な調査や改善のケーススタディについては...

超速！Webページ速度改善ガイド（仮）

著者: @ahomu @1000ch

発売: 11月23日（予定）

出版: 技術評論社

ご期待!!



Thank you



🏠 <http://aho.mu>

🐦 [@ahomu](https://twitter.com/ahomu)

🐱 github.com/ahomu